



広報ほんじょう

2026

# HONJO

# 4

別冊版：七高祭

どこにでも行けるけど、  
ここにいたい。本庄

# Connect



七高祭  
お菓子販売!  
魅力発見チーム ぜU!

# 七つの色から虹へ

カミケンシルクドームで開催した合同文化祭(七高祭)。ステージ発表やワークショップ等、盛りだくさんの1日を高校生たちは笑顔で駆け抜けました。



当日は約4,000人の方が来場し、盛況のうちに幕を閉じた合同文化祭。しかし「七高祭」はこの日1日だけではありません。合同文化祭に至るまで、高校生は、関わる大人たちとともに真剣に課題に対して悩み考え、地域に自ら足を運び、その過程自体が「**まちの賑わい**」となっていました。そして、合同文化祭が終わった後も、その志は失われずに地域を照らし、新たな賑わいを生んでいます。

◀今年の七高祭をみてみよう！

members

# 高校生プロジェクト 七高祭

about 七高祭とは？

高校生プロジェクト「七高祭」は、市内に通う高校生が、学校や学年の垣根を越えて集まり、市民や地元企業等と連携して、市の魅力発信等に取り組むプロジェクトです。

詳しくは、コチラ



history これまでの七高祭

平成20年、「セブンハイスクールサミット」という名前で始まった七高祭。高校生たちによるプレゼンや商品開発、合同文化祭の開催など、さまざまな活動とおして、まちや人のつながりが生まれてきました。



この地域に関わる人 すべてをつなぐ「場」

コロナ禍を経て令和3年度にプロジェクトが再始動してから、「高校生」はもちろん「市民」、「学校」、「行政」等が関わり、交じりあいながら、七高祭でしかできない地域連携活動を行ってきました。今では、それぞれがより広く、より深く関わりあうことで、**まちの賑わい**を生む交流の「場」となっています。

令和7年度も、地域の特色や課題など、4つのテーマに対してワークショップやフィールドワークを行い、特色をいかす方法や課題の解決策を考える「**地域連携プログラム**」、高校生が企画・運営し6校が一堂に介して行う「**合同文化祭**」の2つを軸に、地域企業と連携して商品開発等に取り組む「**地域コラボ企画**」など学校と地域の垣根を超えた取組を行いました。

## 令和7年度の 七高祭

今年度実施したプロジェクト

### 合同文化祭 P03

高校生が主体的に企画・運営する6校での合同文化祭を開催しました。

日時：2月15日(日) 午前10時～午後4時

会場：カミケンシルクドーム

### 地域連携プログラム P04-05

地域の特色・課題に対しワークショップ・フィールドワークを経た成果を合同文化祭で発表しました。

1. こどもまんなかの推進
2. 児玉地域の魅力発信
3. 台湾・台南市との友好交流
4. 本庄の水道水

### 地域コラボ企画 P06-07

「武州本庄つみっこ研究会」、「本庄市社会福祉協議会」、「本庄祇園まつり実行委員会」、「Bakery's Kitchen ohana」の皆さんと商品開発や啓発活動等を行ってきました。

マチノブカツ・市民ライターブース等 七高祭当日は他にもさまざまなブースが出演し、会場を盛り上げました。



supporters

supporters サポーター 株式会社 JTB 熊谷支店

約1年間、それぞれのプロジェクトに参加し、高校生と伴走！高校生と一緒に地域に関わりました。

## 03 本庄の水道水

本庄の水道水の特徴を調べるため、都島浄水場やクリクラミュージアム & 本庄工場、さらには赤城乳業(株)の本庄千本さくら「5S」工場を訪問。水に関する知識を深め、「本庄の水道水は他市に比べ硬度が高い」ことや「硬水を使った料理は軟水よりも煮込み時間が短くなる」といった発見をしました。



### 「本庄の水」の魅力を見つける

本庄の水道使用量は人口減少に加え、節水機器の普及により、年々減少傾向にあります。そうした中で高校生たちが本庄の水道水の魅力を改めて発見し、利用を促進するためのアイデアや新しい活用方法を考えました。



▲七高祭で作ったロゴデザインが本庄の水道アプリのアイコンになりました！

学びをいかして合同文化祭では本庄の水道水の特徴を発信。硬水と軟水を飲み比べてその違いを体感できるブースや水にまつわるクイズ実施し、参加者が楽しみながら本庄の水道水についての知識を学べる場をつくりました。

#### 関わってくれた方

佐々木 大介 さん

クリクラ本庄工場 工場長

高校生たちがクリクラ工場見学で学んだ事をいかして、合同文化祭で利き水を実施し、多くの人に来ていただき好評だったと聞いています。

高校生たちが水道水について学び、これからも興味関心を持っていただけたら幸いです。



## 01 こどもまんなかの推進

#### 関わってくれた方

黒岩 守 さん

和食レストラン えん

高校生がこども食堂をとおしてコミュニケーションの大切さを学び、人の想いに寄り添える人になってもらえればと思い、七高祭に参加しました。

福祉や地域貢献の意識を持つ高校生が増えてほしいですね。



### 「誰もが」利用できるこども食堂をつくる

こども食堂は「こどもだけが利用する場所」というイメージがありますが、実際には、地域の人と交流できる、誰もが安心して過ごせる居場所となっているこども食堂もあります。高校生が考える、誰もが安心して利用できる居場所としての「こども食堂」の開催に向けて取り組みました。

フィールドワークでは市内のこども食堂を訪れ、運営者の方がたから運営への思いを学び、地域の方との関わりを体感しました。その経験をもとに、合同文化祭では、高校生のアイデアをいかした七高祭ならではの「こども食堂」を開催しました。



高校生たちは「誰もが安心して利用できるこども食堂」をつくるため、献立の工夫や食堂のレイアウトなどさまざまなアイデアを出し合いました。当日は、来場者に市内のこども食堂の紹介や高校生自身の想い、楽しめる居場所とおいしい食事を届けました。

## 04 台湾・台南市との友好交流

### 本庄と台湾・台南市をつなぐ

本庄市は昨年台湾・台南市と友好交流協定を結び、文化、芸術、教育、スポーツ、産業及び観光など幅広い分野における交流を通じて、相互の理解と連携を深めるとしています。高校生達が台湾・台南市について学び、両市の結びつきをより強くするためのアイデアを探しました。

#### 関わってくれた方

我妻 清美 さん

本庄市食生活改善推進員協議会 本庄支部会長



『食』をとおして台湾文化を学ぶ調理実習を行いました。高校生の積極的な姿勢や斬新な発想に刺激を受け、この経験は私たちの大きな糧となりました。世代を超えた交流を通じてお互いを高め合いながら大きな成果を生み出せることを実感しています。

本庄市食生活改善推進員協議会の皆さんや、みなかみ町の職員として8年間台南市政府で勤務した阿部真行さんに協力いただき、台南市の食事や生活について知識を深めました。

学びをもとにマリーゴールドの丘公園や本庄の学生生活を紹介する動画を撮影。動画編集や台湾語字幕等アイデアを出し合い、SNSで発信しました。

文化祭当日は、「台南市に関するクイズ」を出題したり、台湾文化を象徴するランタンを展示して台南市の文化や習慣を体感できる企画を実施。また、台湾の黒糖蒸しパン「ヘイタンガオ」を販売するなど、来場者が台南市を知るきっかけを作りました。



## 02 児玉地域の魅力発掘

### 私たちが捉えた「こだま」の素敵な魅力

普段の生活の中だけでは、気づかず見逃してしまう地域の魅力も多い。高校生たちが改めて児玉のまちなかに足を運び、魅力を再発掘し、高校生ならではのアイデアで発信できないか考えました。

児玉地域のまちなかに新たな賑わいを生み出すため、まち歩き等のフィールドワークをとおして、市有地の活用アイデアを探りました。

児玉地域で暮らす方やお店を構える方へのインタビューも実施し、地域の好きなお店や魅力、そして「あったらいいな」と思うものについて生の声を集めました。

高校生たちが考えた活用方法は、



まちの人が自然に集まれる「カフェ」。当日は「児玉にあったらいいな」をコンセプトにしたカフェのアイデア紹介やお菓子やお茶を用意し、来場者に児玉地域の魅力を伝えられました。



#### 関わってくれた方

町田 圭司さん・町田 莉奈さん

だるまや菓子店

七高祭をとおして、高校生に児玉のお店を知ってもらうことができて良かったです。児玉の魅力は、まだまだたくさんあるので高校生の若いパワーとともに、児玉地域を盛り上げていければいいなと思います。



## 本庄祇園まつり実行委員会

× 七高祭

### 伝統文化にふれる

七高祭卒業生の発案で、高校生が伝統文化であるまつりに参加しました。まつりで使用する紙垂作りや神輿の組み立て作業など、普段は目にする機会の少ない伝統行事の裏側に触れるこ

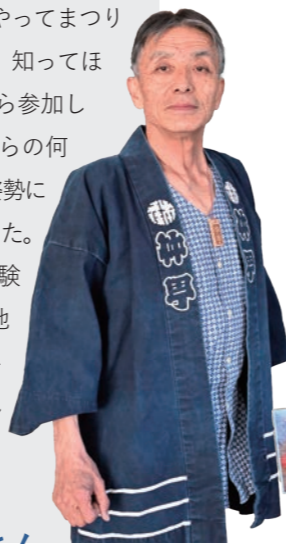
とで、地域の皆さんの想いや、祭りの魅力を深く感じ、学びました。

合同文化祭当日は、企画の経緯や本庄祇園まつりの映像を流すとともに、実物の神輿を展示！実際にまつりで使用する半纏<sup>はんてん</sup>の着用体験など、来場者に伝統行事の魅力を存分に届けました。



高校生たちに「どうやってまつりが成り立っているのか」知ってほしい、まつりの準備から参加してもらいましたが、彼らの何事にも全力で取り組む姿勢に我々も刺激をもらいました。高校生たちが今回体験したことをいかして地域を盛り上げる担い手になってくれたらうれしいです。

仲町自治会長  
吉岡 秀一 さん



## Bakery's Kitchen ohana

× 七高祭

### 七高祭オリジナルパンづくり

昨年に引き続き、今年も七高祭とのコラボ企画として、市内外の方から愛される市内のパン屋さん「Bakery's Kitchen ohana」さんが、オリジナルパ

ンづくりに協力してくださいました。高校生のアイデアから生まれた、本庄産「あまりん」をふんだんに使ったオリジナルパンの「ソルトベリー」と「チョコベリー」。高校生のアイデアと「あまりん」の魅力が詰まったオリジナルパンは、来場者に大好評でした。



高校生たちと共同で商品を作り上げることができて良かったです。高校生が考え、持ち寄ってくれた販売商品のアイデアにはビックリさせられ、こちらも学ばせてもらいました。

販売に向き合う姿勢や声掛けも真剣で、そのひたむきな姿に感動しました。

Bakery's Kitchen ohana  
朝見 善孝 さん



## 本庄市社会福祉協議会

× 七高祭

募金は、地域で支え合うための重要な仕組みのひとつです。高校生の皆さんが地域に働きかけたことで、普段接点の少ない方がたともつながりが生まれ、「支え合いの輪」が広がる大きな力となりました。今後もその行動力や発想力を発揮してほしいと思います。

### 福祉について考える

地域への支援がどのように行われているのかを知るため、高校生自ら活動に参加！支援を必要とする世帯に無料で食品を提供する「フードパントリー生活支援応援（バック）事業」への参加や、地域での赤い羽根共同募金活動を通じて、福祉に関わる方たちの想いにふれ、地域



の福祉が人と人との支え合いやつながりが基盤になっていると実感できました。

合同文化祭当日は、赤い羽根共同募金の推進をテーマに、高校生がデザインした啓発グッズの紹介やクイズ企画をとおして、福祉やその取組について来場者の皆さんに理解を深めていただきました。

## 武州本庄つみっこ研究会

× 七高祭

「つみっこ」を次の世代に伝えるため、さまざまな取組を行ってききましたが、今回の七高祭では、高校生たちから新しいつみっこのアイデアが生まれ、心強く感じました。

今回の体験が高校生たちの「ふるさとの味」や「ふるさとへの思い」を考えるきっかけになればうれしいです。

武州本庄つみっこ研究会会長  
福島 俊男 さん



### 高校生がつなぐふるさとの味

市の郷土料理「つみっこ」の受け継がれてきたこだわりの味や想いについて学ぶため、武州本庄つみっこ研究会の皆さんにお話を伺いました。

高校生たちは、つみっこを後世に伝えるため、実施したアンケートを



もとに発信方法などのアイデアを練りました。

合同文化祭当日は、武州本庄つみっこ研究会の皆さんの協力のもと、アンケートで「一番食べてみたいつみっこ」として声が上がったカレー味のつみっこを高校生が考案し販売！来場者はつみっこの新たな楽しみ方に舌鼓を打ちました。

## マチノブカツ

令和5年度の七高祭で先輩たちが立ち上げた「マチノブカツ sustaina 部」を後輩たちが引き継いで活動を継続！まちのごみ拾いとコーヒータイトで地域の人とつながる活動「Cleanup Coffee Club」の紹介をしました。

## 広報観光大使コーナー

本庄市広報観光大使のビクター・タンさんが製作したワイヤーアート作品を展示。映像やトークを交えて自身の作品や障害者アートについてお話ししました。

## 市民ライター

市民ライターが発信する本庄市の魅力を、写真展示とクイズで紹介。来場者が見つけた本庄の魅力を書いて飾る寄せ書きも開催し、多くの「本庄の魅力」が集まりました。

## ワークショップ

昨年も七高祭に関わってくれた片桐さんが「ものづくりワークショップ」を開催。シュロの葉を使った小物入れやブローチを作り、参加者たちに児玉里山の魅力を伝えました。



# connect

## この地域に関わる、すべての人をつなぐ場

七高祭をとおして生まれたのは、まちの賑わいをつくる「人とまちのつながり」。そして、そこで生まれたつながりは一度きりで終わらず、まちの人たちや学生たちが主体的に関わり始め、新たなつながりや次の挑戦へと広がっている。本庄には、七高祭がある。これからも人と、まちをつないでいく。

